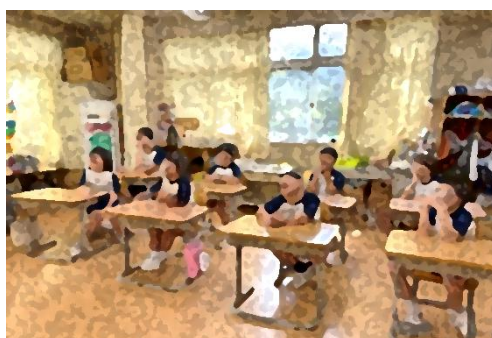


I. 小学部・生活科

小学部 生活科

单元名「伝えよう！合宿の思い出！（大塚祭に向けて）」

日時	2025年10月31日(金) 10:25~11:10
対象	小学部 3・4年 つき組 (男子5名・女子3名)
場所	つき組教室
授業者	當真正太(T1)・門野あすか(T2)・佐々木小百合(T3)



〈小学部教育目標〉

- (1) 他者と関わりながら、様々な活動に参加し、きまりやマナーを守って生活する。
- (2) 基本的な生活習慣を身につけ、主体的に活動に取り組む。
- (3) 様々な体験を通して習慣や知識を身につけ、「思い」や「願い」をもつ。

1. 単元計画

学部・年/組	教科等	時数（想定）	実施時期	作成者
小学部つき組	生活	10 時間	10 月～11 月	當眞

(1) 単元名

伝えよう！合宿の思い出！（大塚祭に向けて）

(2) 単元の構想

①	学習者の興味・関心 (児童・生徒観)	児童は、1学期に行われた宿泊学習に参加している。その事前学習では、動物園や水族園の生き物の名前を覚えたり、関連する歌やダンスをしたり、絵本『スイミー』を題材とした言葉や動作で伝え合う活動に取り組んできた。そして、2学期の大塚祭では、児童が宿泊学習で体験してきた思い出を発表する予定である。本単元では、大塚祭での発表に向けて、宿泊学習の思い出について、互いに伝え合う活動に取り組み、自分の考えや気持ちを相手に伝えたり、相手の考えや気持ちを聞いたりして、相互にやり取りする姿が期待できる。
②	学習活動・教材 (単元・題材観)	本単元「伝えよう！合宿の思い出！（大塚祭に向けて）」は、生活科草案「Ⅲ 生活や出来事の伝え合い」に関する内容である。また、知的障害特別支援学校生活科の「オ 人との関わり」の内容及び小学校生活科の「小(8) 生活や出来事の伝え合い」の内容を関連させた取り組みである。 本単元では、宿泊学習の思い出として、動物園、植物園、水族園で体験してきたことから、発表したい動物や場所を選び、写真や文でまとめて、めくりパネルを作成して発表する。また、発表に対して質問したり、質問に応えたりする。さらに、音楽科で取り組んだ楽曲『合宿の歌』『動物園へ行こう』『南の島のハメハメハ大王』『スイミー』の歌やダンス、国語科で取り組んだ『スイミー』の言葉や動作で伝え合う活動を取り入れた展開を工夫している。また、質問カードや応答カード等のツールの活用や教員の仲介した関わりの支援で、児童が相互に伝え合えるように環境設定する。
③	単元の意義・展望 (指導観)	指導の実際として、1次では、大塚祭や合宿について、ビデオ教材を用いて振り返りを行い、次に自分が発表したい動物や場所等について選択する。2次～4次では、動物等の写真を貼ったり、説明文を書いたりして発表パネルを作成する。5次（本時）では、動物園、植物園、水族園についてまとめたパネルを使って発表し、質問したり、応答したりするといった相互に伝え合う活動を行う。6次、7次では、大塚祭の発表に向けたビデオ撮影について確認したり、完成したビデオを鑑賞したり、最後は大塚祭後の振り返りを行う。 手だてとしては、ビデオ教材や写真、パネル等の視覚的な教材を用意したり、児童が質問カードや応答カードから選択して伝えることができるようにしたり、教員が児童の言葉を仲介して他の児童へつなぐといった支援をすることで、児童が互いに伝え合える環境を設定する。評価に関しては、本単元の授業を通して個別の目標や手だてを設定し「評価レベル」に基づいて行う。

(3) 単元目標（単元全体に関わる内容）

単元を通して目指す子どもの姿

合宿の思い出を伝える活動を通して、自分の考えや気持ちを相手に伝えたり、相手の考えや気持ちを聞いたりする姿

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・自分たちの生活を身近な人と伝え合う活動を通して、身近な人と関わることのよさや楽しさが分かる。 【Ⅲ 生活や出来事の伝え合い】	・自分たちの生活を身近な人と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。【Ⅲ 生活や出来事の伝え合い】	・自分たちの生活を身近な人と伝え合う活動を通して、身近な人と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。 【Ⅲ 生活や出来事の伝え合い】

(4) 指導計画

次	小単元名	時数	学習活動
一	合宿を思い出そう 大塚祭を思い出そう	2	・7月の合宿のビデオを鑑賞し、体験してきた内容を思い出す。 ・前年度の大塚祭のビデオを鑑賞し、取り組み内容を思い出す。 ・今年度の大塚祭では、合宿の思い出（動物園、植物園、水族園等）について発表することを知らせる。
二	動物園の思い出	1	・ビデオや写真を見たり、『動物園へ行こう』を歌ったりして動物園の様子を思い出す。 ・動物園で体験したことを、パネルを使って写真や文で表し、発表の練習をする。
三	植物園の思い出	1	・ビデオや写真を見たり、『南の島のハメハメハ大王』を歌ったりして植物園の様子を思い出す。 ・植物園で体験したことを、パネルを使って写真や文で表し、発表の練習をする。
四	水族園の思い出	1	・ビデオや写真を見たり、『スイミー』を歌ったりして水族園の様子を思い出す。 ・水族館で体験したことを、パネルを使って写真や文で表し、発表の練習をする。
五	発表しよう	2	・動物園、植物園、水族園について発表する。 ・発表について質問したり、応答したりして相互に伝え合う活動をする。
六	ビデオ収録に向けて	1	・発表内容や国語科『スイミー』を関連させた内容をビデオ収録し大塚祭で上映することを知らせる。 ・他教科の授業と関連させて、今後のビデオ収録について知らせる。
七	上映会をしよう 大塚祭の振り返り	2	・大塚祭のビデオを鑑賞し、自分の思ったことを発表したり、友達の発表を聞いたりする。 ・これまでの取り組みを振り返り、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする。

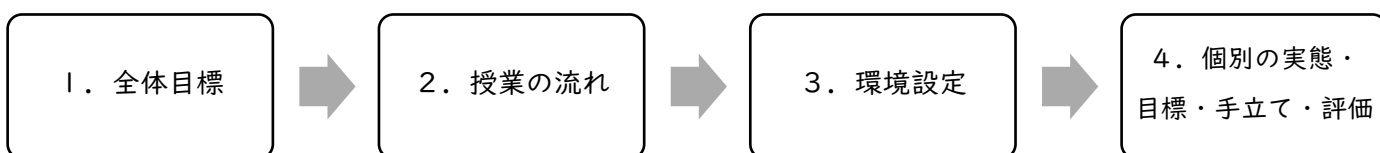
(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
・自分たちの生活を身近な人と伝え合う活動を通して、身近な人と関わることのよさや楽しさが分かっている。 【Ⅲ 生活や出来事の伝え合い】	・自分たちの生活を身近な人と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。 【Ⅲ 生活や出来事の伝え合い】	・自分たちの生活を身近な人と伝え合う活動を通して、身近な人と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとしている。 【Ⅲ 生活や出来事の伝え合い】
参考 特別支援学校学習指導要領		
オ 人との関わり 1段階（イ） ・身の回りの人との関わり方に関心をもっている。 2段階（イ） ・身近な人との接し方などについて知っている。 3段階（イ） ・身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けている。	オ 人との関わり 1段階（ア） ・教師や身の回りの人に気づき、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとしている。 2段階（ア） ・身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとしている。 3段階（ア） ・身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとしている。	1段階 ・自分のことに取り組もうとしたり身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。 2段階 ・自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。 3段階 ・自分のことに取り組んだり身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとしていたりしている。
参考 小学校学習指導要領 生活		
小（8）生活や出来事の伝え合い ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かっている。	小（8）生活や出来事の伝え合い ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	小（8）生活や出来事の伝え合い ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとしている。

(6) 単元計画の評価(次年度に向けて) A 概ね妥当 B 要検討

時数：A 概ね妥当 B 要検討(ねらいの達成に向けた時数として妥当)	目標設定：A 概ね妥当 B 要検討(個別の目標、評価レベルとも妥当)
題材：A 概ね妥当 B 要検討(体験したことのまとめ学習として妥当)	教材・環境設定：A 概ね妥当 B 要検討(ツールの活用等において妥当)

2. 授業の実際（五次：2時間目）



(1) 全体目標

資質・能力	内容
知識及び技能	伝え合う活動を通して、友だちや教員と互に関わることのよさがわかる。(①)
思考力、判断力、表現力等	自分の考えや気持ちを友だちや教員に伝えたり、友だちの考えや気持ちを聞いたりする。(②)
学びに向かう力、人間性等	

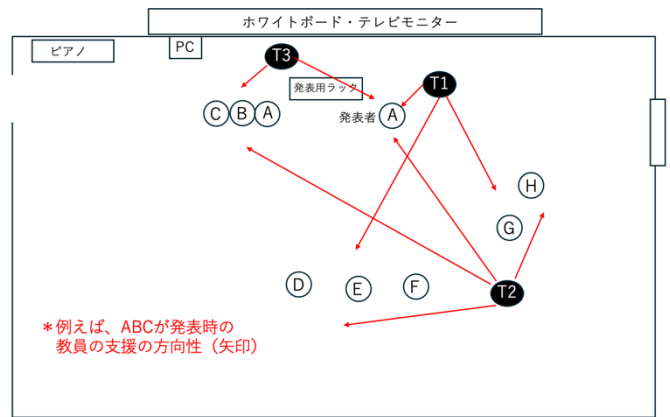
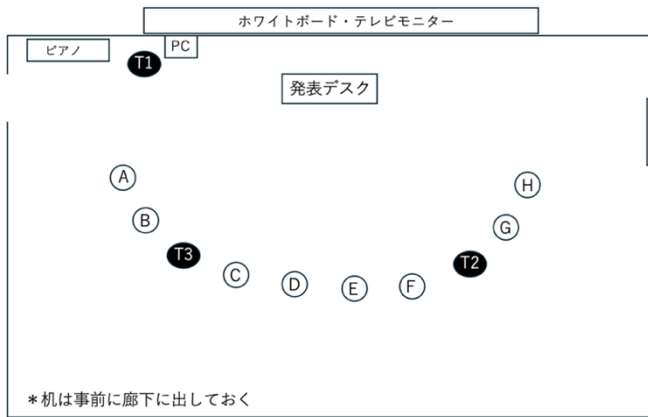
「学びに向かう力、人間性等」に関しては、単元全体を通して評価する。

(2) 授業の流れ

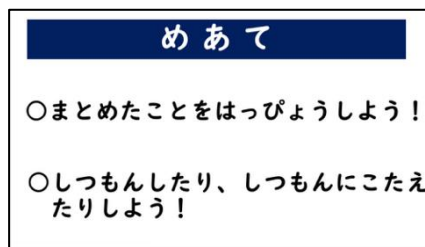
	学習内容	指導上の配慮事項/【評価】	教材教具/学習の様子
導入 5分	1. はじめのあいさつをする。 2. 前時の学習を振り返り、本時の学習について知る。 3. 今日めあてを知る。 ○まどめたことをはっぴょうしよう! ○しゅもんしたり、しゅもんこたえたりしよう! 4. ♪「がっしゅくのうた」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・T1は、日直にはじめのあいさつをするように言葉がけをする。 ・前時の発表について、スライドを提示して説明をする。 ・T1は、めあてを提示して児童と一緒に読み上げて確認する。 ・歌うことで発表への意欲を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習をスライドで提示 ・今日めあてをスライドで提示 ・音源の準備 「がっしゅくのうた」 「動物園へ行こう」 「南の島のハメハメハ大王」 「スイミー」
展開 35分	5. 動物園チームの発表 A児、B児、C児 ①♪「動物園へ行こう」をみんなで歌う。 ②動物園の発表をする。 発表を聞く。 ③質問をしたり、質問に答えたりする。 6. 植物園チームの発表 D児、E児 ①♪「南の島のハメハメハ大王」をみんなで歌う。 ②植物園の発表をする。 発表を聞く。 ③質問をしたり、質問に答えたりする。 7. 水族園チームの発表 F児、G児、H児 ①♪「スイミー」をみんなで歌う。 ②水族園の発表をする。 発表を聞く。 ③質問をしたり、質問に答えたりする。	【思②】 <ul style="list-style-type: none"> ・T1は、発表する児童の言葉を補足し、仲介して伝える等の支援をする。 ・T3は、パネルめくり等の支援をする。 【知①】 <ul style="list-style-type: none"> ・T2は、児童が質問カードを選択して質問できるように支援し、T1は、応答カードを提示する等の支援をする。 【思②】 <ul style="list-style-type: none"> ・T1は、発表する児童の言葉を補足し、仲介して伝える等の支援をする。 ・T3は、パネルめくり等の支援をする。 【知①】 <ul style="list-style-type: none"> ・T2は、児童が質問カードを選択して質問できるように支援し、T1は、応答カードを提示する等の支援をする。 【思②】 <ul style="list-style-type: none"> ・T1は、発表する児童の言葉を補足し、仲介して伝える等の支援をする。 ・T3は、パネルめくり等の支援をする。 【知①】 <ul style="list-style-type: none"> ・T2は、児童が質問カードを選択して質問できるように支援し、T1は、応答カードを提示する等の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表パネルの準備 「動物園3枚」 「植物園2枚」 「水族園3枚」 ・質問カードの準備 「動物園用質問カード」 「植物園用質問カード」 「水族園用質問カード」 ・応答カードの準備 「動物園用応答カード」 「植物園用応答カード」 「水族園用応答カード」 <p>前時までの学習の様子</p>  <p>好きな動物の写真を貼り、伝えたいことを書いている様子</p>  <p>好きな場所の写真を貼り、伝えたいことを書いている様子</p>  <p>好きな生き物の写真を貼り、伝えたいことを書いている様子</p>
まとめ 5分	8. 今日めあてを振り返り、楽しかったこと等を発表する。 9. 次回の活動を知る。 ・次回は、大塚祭のビデオ撮影に向けて話し合うことを知る。 10. おわりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばったこと等を称賛し、花丸ポイントカードを貼って意欲を高める。 ・次回の活動内容を提示し、ビデオ撮影への見通しが持てるようにする。 ・T1は、日直におわりのあいさつをするように言葉がけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花丸ポイントカード  <ul style="list-style-type: none"> ・次回の内容をスライドで提示

(3) 環境設定

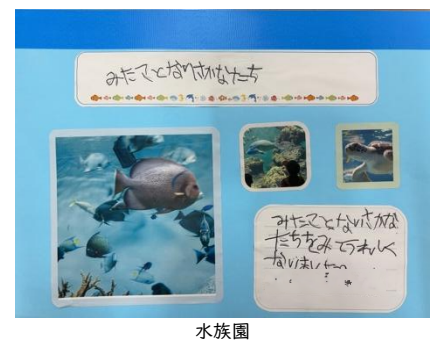
① 学習環境



② 提示資料（抜粋）



③ 発表パネル（抜粋）



④ 質問カード



⑤ 応答カード



(4) 個別の実態・目標・手立て・評価

※「評価」…児童の活動において観察された行動に応じて評価レベルを記入する。(5) 参照

児童	本時に関わる実態	目標	手立て	評価
3年 児童 A 評価 レベル 2	動物園でモルモットを優しく触ることができた経験から、発表したい動物としてモルモットを選択した。発表では、教員が言葉を補足したり、選択肢を提示したりする支援を受けて発表している。	①質問カードを指差して選択して教員と一緒に伝えたり、友だちからの質問に応えたりする。	・教員が質問カードを提示して、指差して選択できるようにしたり、教員と一緒にカードを読んで質問したりする。 ・応答カードから教員と一緒に選んで応答できるようにする。	2
		②教員と一緒に動物園の「モルモット」について発表したり、発表をしている友だちに視線を向けたりする。	・パネルをめくる動作を教員が支援する。 ・必要に応じて言葉の補足を行い、発表できるようにする。 ・友だちの発表を聞くように言葉がけをする。	2
3年 児童 B 評価 レベル 3	動物園で馬を見て、「あれ、あまり動かないね」と思ったことから関心をもち、発表したいことに選んだ。発表では、平仮名の文を読んだり、自分で考えたことや思ったことを言葉で発表したりする。	①質問カードから質問したいことを選び、言葉で質問したり、友だちからの質問に応えたりする。	・必要に応じて質問カードから選んで質問できるようにする。 ・必要に応じて応答カードを示唆したり、言葉を補足したり、仲介した関わりで応答できるように支援する。	4
		②動物園の「ウマ」について、言葉で伝えたり、友だちの発表を聞いたりする。	・パネルの写真や文を読んで発表するように言葉がけをする。 ・必要に応じて教員が言葉を補足したり、仲介して伝えたりする。 ・友だちの発表をしっかりと聞くように言葉がけをする。	3
4年 児童 C 評価 レベル 4	動物園で見れないと思っていたパンダが待ち時間0分で見れることに驚き、関心をもって発表したいことに選んだ。発表では、簡単な漢字のある文を読んだり、友だちの質問に応えたりすることができる。	①質問したいことを考えて友だちに伝えたり、友だちからの質問に応えたりしている。	・質問したいことを考えて質問するように言葉がけをする。 ・友だちからの質問に対して、思ったことを自由に応答するように言葉がけをする。	5
		②動物園の「パンダ」について、パネルにまとめたことを発表したり、友だちの発表を聞いたりしている。	・パネルにまとめた内容を伝えるよう示唆したり、友だちの発表を最後までよく聞くように言葉がけをする。	4
3年 児童 D 評価 レベル 3	植物園の中にある建物やお面等を見て、「ハメハメハ大王のお家」と発言し、その場所を発表したいことに選んだ。発表では、平仮名の文を読んだり、自分で考えたことを言葉で発表したりする。	①質問カードから質問したいことを選び、言葉で質問したり、友だちからの質問に応えたりする。	・自分で考えて質問するよう言葉がけしたり、必要に応じて質問カードから選択できるように用意する。 ・必要に応じて応答カードを提示する。	4
		②植物園の「南の島のお家」について、言葉で伝えたり、友だちの発表を聞いたりする。	・教員が「他にも言いたいことはありますか？」等の質問をし、発表内容を広げる言葉がけを行う。 ・友だちの発表を最後まで聞くように言葉がけをする。	3

4年 児童 E 評価 レベル 3	植物園のすべり台で遊んだことを思い出し、発表したいことに選んだ。発表では、自分が体験したことについて発音は不明瞭ではあるが、言葉と動作を交えて伝えたり、教員の言葉の補足を受けたりして発表する。	①質問カードから質問したいことを選び、言葉と動作を交えて質問したり、友だちからの質問に応えたりする。	・質問カードを指差して選択できるようにし、本人の言葉を教員が仲介して他の児童に伝える支援をする。 ・応答カードを指差して選び、言葉と動作を交えて伝えられるように支援する。	3
		②植物園の「ジャングルすべり台」について、言葉や動作を交えて発表したり、友だちの発表を聞いたりする。	・発表の際、本人の言葉を教員が復唱したり、必要に応じて言葉を補ったりする。 ・本人の言葉を教員が仲介して他の児童に伝える等の支援をする。	3
4年 児童 F 評価 レベル 3	スイミーの学習で、マグロの役をやったことで、水族園ではマグロを見つけることを楽しみにしていた。発表では、平仮名の文を読んで発表したり、友だちからの質問に対して、簡単な受け応えをしたりする。	①質問カードから質問したいことを選び、言葉で伝えたり、友だちからの質問に応えたりする。	・自分で質問を考えたり、質問カードから質問を選択したりするよう言葉がけをする。 ・必要に応じて、応答カードを提示する。	3
		②水族園の「クロマグロ」について発表したり、友だちの発表を聞いたりする。	・発表する際、必要に応じて教員が言葉で示唆を与えたり、補足をしたりする。 ・自分が話しをするだけでなく、友だちの話を最後まで聞くように言葉がけをする。	3
4年 児童 G 評価 レベル 2	ペンギンが好きで水族園のペンギンを見つけて喜んでいて。発表では、教員が側について選択枝を提示した中から選んだり、教員の言葉を模倣したりして発表する。また、友だちの言葉を聞いて、その言葉を模倣したり、繰り返し言ったりして楽しんでいる。	①質問カードを指差して選択して教員と一緒に伝えたり、友だちからの質問に教員と一緒に応えたりする。	・質問カードを指差して質問を選択したり、教員の言葉を模倣して伝えられるようにする。 ・教員が代弁する等の支援で、質問に応答できるようにする。	2
		②教員と一緒に水族園の「ペンギン」について発表したり、発表している友だちに視線を向けたりしている。	・教員と一緒にパネルをめくったり、パネルを持ったりする等の支援をする。 ・発表している友だちを見るように言葉がけをする。	2
3年 児童 H 評価 レベル 3	スイミーの学習で、「見たこともない魚たち」の役をやったことで、水族館ではたくさんの綺麗な魚を見て、「見たこともない魚たち」と発言している。発表では、選択肢から選んだり、教員の言葉の補足等の支援で発表する。	①質問カードから、質問したいことを選んで言葉で質問したり、友だちからの質問に応えたりする。	・質問カードから選択したり、教員が仲介して他の児童に伝えたりして質問できるようにする。 ・応答カードから教員と一緒に選び、応答できるようにする。	3
		②水族園の「見たこともない魚たち」について発表したり、友だちの発表を聞いたりする。	・必要に応じて教員が言葉を補足したり、仲介して他の児童に伝えたりする。 ・友だちの話しを最後まで聞くように言葉がけをする。	3

(5) 評価についてのおよその目安

評価 レベル	1	2	3	4	5
	評価規準に迫る様子が見られない	1段階の目標を達成したと想定する姿	2段階の目標を達成したと想定する姿	3段階の目標を達成したと想定する姿	3段階の目標を越えたと想定する姿
観察された姿	・行おうとしない ・機会なし	・目線を向ける ・行おうとする ・教員と一緒にいる(身体ガイダンス等)	・教員を模倣して言葉や動作で表現する ・選択肢から選ぶ ・教員に依頼して一緒にいる	・教員の促し(問いかけやジェスチャー等)を受けて行う ・選択肢を手がかりに自分の言葉で答える	・自発的に取り組む ・想起して答える ・言葉や動作で具体的に表現する
児童の目標とするレベル	A児.G児	B児.D児.E児.F児.H児	C児		

○伝え合う活動を通して、友だちや教員と互に関わることのよさがわかる。【知①】

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけに応じない。	質問カードを指差して選択して教員と一緒に伝えたり、友だちの質問に教員と一緒に応えたりする。	教員の言葉がけや質問カードの選択肢から選ぶ支援を受けて、質問したり、質問に応えたりしている。	質問したいことを考えて友だちに伝えたり、友だちからの質問に応えたりしている。	質問したいことを複数考えて友だちに伝えたり、友だちからの質問に言葉を膨らませて応えたりしている。

○自分の考えや気持ちを友だちや教員に伝えたり、友だちの考えや気持ちを聞いたりする。【思②】

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけに応じない。	教員と一緒に発表したり、話をしている友だちに目線を向けて聞くとしている。	教員の言葉の補助や仲介した関わりを受けて、言葉や動作を交えて発表したり、友だちの発表を聞いたりしている。	パネルにまとめたことを発表したり、友だちの発表を聞いたりしている。	パネルにまとめたことを言葉を膨らませて発表したり、友だちの発表を聞いたりしている。

3. 考察

(1) 指導方法および教材・教具の工夫

①MTの視点から

本単元では、児童が実際に体験したことを教員との対話を通して思い出し、児童が好きな動物や場所について選び、それを写真や文でパネルにまとめる制作活動に取り組んできた。その活動を通して、児童の「伝えたい」「発表したい」という思いが高まったと考える。また、児童の思考を支援するツールとして、発表パネルや質問カード、応答カードを活用したり、教員が児童の言葉を補足したり、仲介した関わりによる支援を行ってきた。児童が伝えたい内容を発表し、質問したり、質問に応えたりするといった相互に伝え合う活動を通して、「伝えることができた」「伝わった」という喜びを味わい、本単元のねらいとしての「身近な人と関わることのよさや楽しさがわかる」ことにつながったと考える。

②STの視点から

本単元において最も重視した点は、言語表現の獲得状況にかかわらず、児童が自分なりの方法で自由に表現できる環境を整えたことである。言語表出が少ない児童や、伝えたいことが途中で分からなくなってしまう児童に対しては、質問カードや応答カードや、教員による選択肢の提示といった手だてを用意したが、それらを即座に提示するのではなく、まずは児童のつぶやきや表情を受け止め、聞く時間を十分に確保することを意識した。そのうえで、必要に応じて支援を加えることで、「自分で伝えることができた」という達成感を損なわないよう配慮した。支援と待つ姿勢のバランスを大切にすることで、時として教員が考えてもみなかった児童の思いを引き出すことができ、個々の発言機会を保障することの必要性を改めて感じている。

③生活科の授業づくりにおいて大切にしたこと

本単元では、児童が友だちや教員に伝えたいという思いや、友だちや教員と伝え合うことの楽しさに気付くことを大切に授業づくりに取り組んだ。そして、質問カード等のツールを活用することで児童同士の伝え合いを支援したり、児童の言葉を教員が仲介して他の児童に返したりする等、伝え合う場を広げる支援を行ってきた。このように、小学部における生活科では、自ら体験したことを振り返り、まとめて発表したりすることで伝え合う力を高めていくことが大切である。また、生活科の授業と、他教科等の授業を関連させ、伝え合うことを共通のねらいとして教科横断的な学習に取り組んだことが、本単元の目標の達成につながったと考える。例えば、国語科では、「気持ちを表す言葉」について学習しており、児童が前に出て発表する際、出来事や体験したことに加えて、「嬉しかった」、「ドキドキした」等、自分はどんな気持ちになったかまでを含めて伝えるといった取り組みが、生活科の授業においても、伝え合う力の向上につながったと考える。

表 I-1 他教科との関連

つき組 生活科「伝えよう！合宿の思い出！（大塚祭に向けて）」に関連		
月	10	11
生活	伝えよう！合宿の思い出！（大塚祭に向けて）	
国語	いろいろな気持ち『どんな気持ち？』 言葉と動きで伝えよう！『スイミー』	
図工	大塚祭の作品展示に向けて	
音楽	音楽の楽しさを味わおう『動物園に行こう』『南の島のハメハメハ大王』『スイミー』	
自立活動	『だれと だれが どこで なにをしている』を伝えよう！	

（２）児童の学びの姿

本実践において児童は、動物園や植物園、水族園での実体験を基に、印象に残った生き物や場所を主体的に選択し、発表したい内容として言語や動作で伝えようとする姿が見られた。「かわいかった」「楽しかった」「また行きたい」等、体験と結び付いた情動的な表現が多く、学びが実感を伴っていたと考える。また、「ぼくは～を発表します」「私は～がいいです」といった自己選択・自己決定に基づく発話が増え、発表を意識した表現へと発展していった。さらに、友だちの発言を聞いて、それに応答したりする姿が見られ、相互に関わりながら伝え合う様子が見られた。加えて、保護者の連絡帳の記述から、学習内容が家庭での会話にも広がっている様子も確認できた。

（３）成果と課題

①成果

本実践では、児童が実体験を振り返り、関心のある対象について写真や文章で整理し発表する活動を設定した。その結果、児童の「伝えたい」という意欲の向上が見られた。また、発表パネル等のツールの活用に加え、教員が児童の発言を仲介する支援を行うことで、児童同士が相互に伝え合う学習環境を構築することができた。さらに、国語科や自立活動等と横断的に関連付けることにより、児童の「伝え合う力」を総合的に育成できたと考える。これらの活動を通して、児童は自分の思いが相手に伝わる経験を積み重ね、身近な人と関わることのよさや楽しさを理解することにつながったと考える。

②課題

一方で、児童の実態や目標に応じて支援を段階的に減らしていく視点が重要であることが課題として示唆された。具体的には、身体援助（代弁を含む）から指差しによる選択、言葉がけによる示唆を経て、最終的には支援なしでの伝え合いへと移行する段階的支援の在り方について、今後さらに検討していく必要がある。また、本実践を通して、生活科における「伝え合い」の学習が、他教科や教育活動全体に通じる重要な要素であることを再認識した。児童の「伝え合う力」の資質・能力を育成するためには、授業内の活動にとどめるのではなく、授業の振り返りや帰りの会での発表、休み時間における自然なやり取りなど、学校生活の様々な場面と意図的に関連付けていくことが大切であり、今後の継続課題でもある。

（文責：當真正太、門野あすか、佐々木小百合）